

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	54	—	事業名	平成こども塾事業	担当部課	建設部みどりの推進課
------	----	---	-----	----------	------	------------

基本情報	総合計画	基本方針	1	万博理念を継承し、自然環境にこだわるまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	7	農のある暮らし・農のあるまちを支える	款	9	教育費
		施策の進め方	-		項	4	社会教育費
	まちづくり 行程表	フラッグ	-		目	1	社会教育総務費
		政策分類	-		大事業	9	平成こども塾事業
	その他(関係法令、要綱等)						
事業開始の背景、経緯等 平成11年に策定された第4次総合計画の柱の一つ、環境緑地系プロジェクトとして「長久手田園バレー構想」が掲げられ、平成14年度より「長久手田園バレー事業」が実施された。 その子ども版プロジェクトとして平成18年4月に「長久手平成こども塾」がオープンした。							

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) ・平成こども塾の施設管理・運営等を行う。 ・地域の環境や自然についての学習活動 ・学習活動を通じた地域住民との交流 ・学校連携活動					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 小、中学生(保護者・教師を含む)					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 自然・文化・環境・農業等に関わる活動に参加してもらい健全な心と身体を培う。					
	事業を構成する事務事業	① 平成こども塾管理事業	現状維持	④			
	② 平成こども塾企画事業	現状維持	⑤				
	③		⑥				

コスト推移	項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	事業費(A)	千円	予算 決算				12,645 12,035	12,363 11,590
人件費(B)	千円	決算				20,566	15,405	
総コスト(A)+(B)	千円	決算				32,601	26,995	

成果推移	成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	A 来館者数	人	目標	9000	9000	9000	9000	9000
			実績	7696	8363	9889	9980	
	B 参加者の満足が得られること	%	目標	85	85	85	85	85
実績			97	98	98	97		
C 学校教育に貢献していること	%	目標 実績	- -	- -	- -	- -	- -	85

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 各プログラム募集人数6,000人+その他来館者数3,000人

B おおむね参加者の満足が得られること(満足度85%)

C 学校の授業の一環として効果的に連動していること(寄与度85%)

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 周辺市町村で子どもを主体として食と農に関する取組を実践する施設があるという例は聞かない。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 来館者の目標を上回っており、目標を達成している。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 施設の開館11年を経過し、今後徐々に老朽化することが予想されることと、年々プログラム参加者が増加傾向にあるため駐車スペースの拡充等、適切な施設管理と予算の確保に努めたい。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 今までどおり地域の自然環境や文化などについての学習活動ができるよう、施設の維持管理等をしていきたい。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 今後5年をメドに使用頻度が高く、劣化しているカマドの修繕を、プログラムに影響の出ないように計画的に修繕していくとともに、里山の自然を生かした独創的なプログラムを計画していく。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

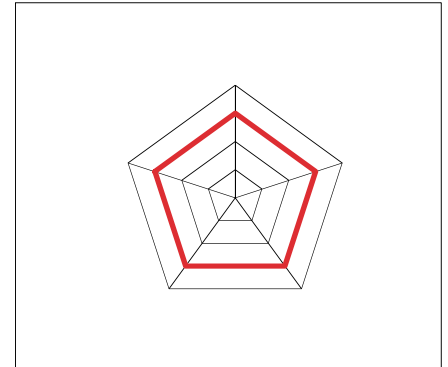
事業名		平成こども塾事業													
番号	①	事務事業名	平成こども塾管理事業			款	9	項	4	目	1	大事業	9	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成18年度				終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)	<ul style="list-style-type: none"> 小中学生を対象に 今までどおり、安心して安全な体験プログラムが実施できるように、施設管理・プログラム運営を行います。
	(対象をどのような状態にしたいか)	安心安全な状況でプログラムを体験させる。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)

里山の自然を生かした農作業、創作、自然観察などを更に充実させるような施設管理・運営を行っている。

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)

プログラムのサポート体制に少し偏りがあるため、充実させ、安心安全なサポート体制でプログラムを体験させる必要がある。また、参加者数が増加傾向にあるため、しばしば隣接の「日本介助犬協会」の駐車場を借りることが増えてきた。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)

現在は、長久手里山クラブの活動拠点にもなりつつあるため、施設の管理運営を適切に行うとともに、活動エリアを少ずつ拡大するとともに、来館者増を見据えた、駐車場の区画線（ロープの張り直し）や舗装化を検討することにより、駐車台数を増加させたい。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
			事業費	千円	予算	200	200	9,010
			決算	211	205	8,496	7,942	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
			体験プログラムの実施	回	目標	200	200	200
			実績	211	205	200	204	
			目標					
			実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)

長久手市内においては、年々新しい住民が増えているため、平成こども塾における里山での体験活動や文化の継承を継続することが重要となっている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>

新規行政評価対象

(何をどのような状態に改善したのか)

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		平成こども塾事業										
番号	②	事務事業名	平成こども塾企画事業		款	9	項	4	目	1	大事業	9	中事業	2
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成18年度		終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象 手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	<ul style="list-style-type: none"> ・長久手市民を主体とする小中学生とその保護者。 ・環境団体、地域で活動する団体（サポート隊）や専門家の指導の下、様々な体験活動を実施する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	子どもたちの感性や、生きる力、世代を超えたコミュニケーション能力を育む。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
			事業費	千円	予算		
		決算			3,539	3,648	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
			体験プログラムの実施	回	目標	200	200
		実績	211	205	200	204	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

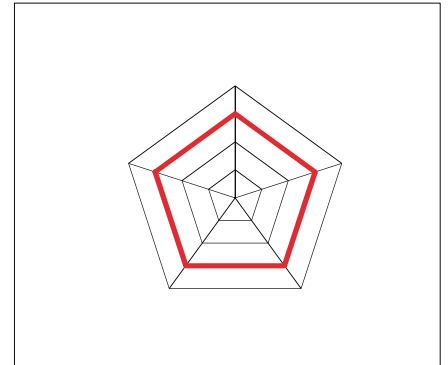
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
長久手市においては、年々新しい住民が増えており、プログラム参加者も新住民の比率が非常に高くなっている。そのためにも、平成こども塾において里山での体験活動や文化の継承を継続していくことが重要となっている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
事業は安定しておりそのまま継続することが望ましい。しかし、指導者の高齢化が徐々に進んでおり、指導者の世代交代をスムーズに行っていききたい。
(何をどのような状態に改善したのか)
今まで平成こども塾事業に関わった関係者や、こどもファームなどの卒業生に声かけをし、若い世代がボランティアに関わりやすいような雰囲気作りを行っている。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
里山の自然を生かした農作業、創作、自然観察など、季節に応じた多様な体験（学校連携約70回、サポート隊プログラム約100回、その他約30回）をすることにより、子どもたちの感性や、生きる力、世代を超えたコミュニケーション能力を育みます。

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
プログラム参加者が年々増加傾向に有り、体験スペース（室内室外とも）が狭くなってきている。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
学校、サポート隊、専門プログラム受託者、地域で活動する団体等と綿密な連携をすることにより、里山での活動をより良いものにするとともに、体験スペースの拡充を図っていきます。